

# Data

■加山興業株式会社の各品目の中間処理方法と処理能力一覧

産業廃棄物	破 碎	選 別	焼 却	押出成形	乾 燥	減容固化	蛍光管の破碎
汚泥			39.72m <sup>3</sup> /日		6.40 m <sup>3</sup> /日		
廃油			31.92m <sup>3</sup> /日		9.60m <sup>3</sup> /日		
廃酸			6.64m <sup>3</sup> /日		9.60m <sup>3</sup> /日		
廃アルカリ			6.64m <sup>3</sup> /日		9.60m <sup>3</sup> /日		
廃プラスチック類	1008.72t/日			12.40t/日		0.16t/日	
紙くず	764.4t/日			32.90t/日			
木くず	1447.2t/日			24.80t/日	192.96t/日		
繊維くず	887.28t/日			32.90t/日			
ゴムくず	1125.12t/日	751.92 m <sup>3</sup> /日		12.40t/日			
金属くず	2680.8t/日			4.00t/日			1.80t/日
ガラス・コンクリート 陶器くず	3377.28t/日			4.00t/日			
がれき類	1846.32t/日						
動植物性残さ			39.72m <sup>3</sup> /日		6.40m <sup>3</sup> /日		
一般廃棄物	1108.08t/日			202.56t/日			
特別管理産業廃棄物	破 碎	選 別	焼 却	押出成形	乾 燥	減容固化	蛍光管の破碎
感染性廃棄物				15.10t/			
引火性廃油				11.72m <sup>3</sup> /日			

編集:かやま通信実行委員会



## 廃棄物のことなら当社にお任せください!!

●WEBカメラ作動中! ●当社車両全てにGPS搭載!!



押出成形RPF燃料化  
処理能力192.96t/日



選別-8品目-  
処理能力751.92t/日



焼却-12品目-  
サーマルリサイクル  
処理能力15.1t/日

場内WEBカメラを使用し  
リアルタイムに廃棄物の  
処理工程をご確認頂けます!

見学随時  
受付中!

木くず  
処理能力1051.44t/日

蛍光灯  
処理能力1.8t

## <トピックス>

### 不撓不屈で前進! RPFヤードの出火乗り越えて

加山興業(株)は、2007年10月3日にRPF(固体燃料化)施設から火が出た。固体燃料化施設は使用できなくなり、急ピッチで復旧作業を行ってきた結果、08年初めに、再びRPF製造を開始できることとなった。近隣や環境市民団体からも、再開できたことに対して、暖かいメールが届けられていた。

## Topics

### 温暖化対策にも貢献、無害な固体燃料化

「真面目に事業に取り組んでいます。復旧できてよかったです」と近隣住民から嬉しい声が届けられた。

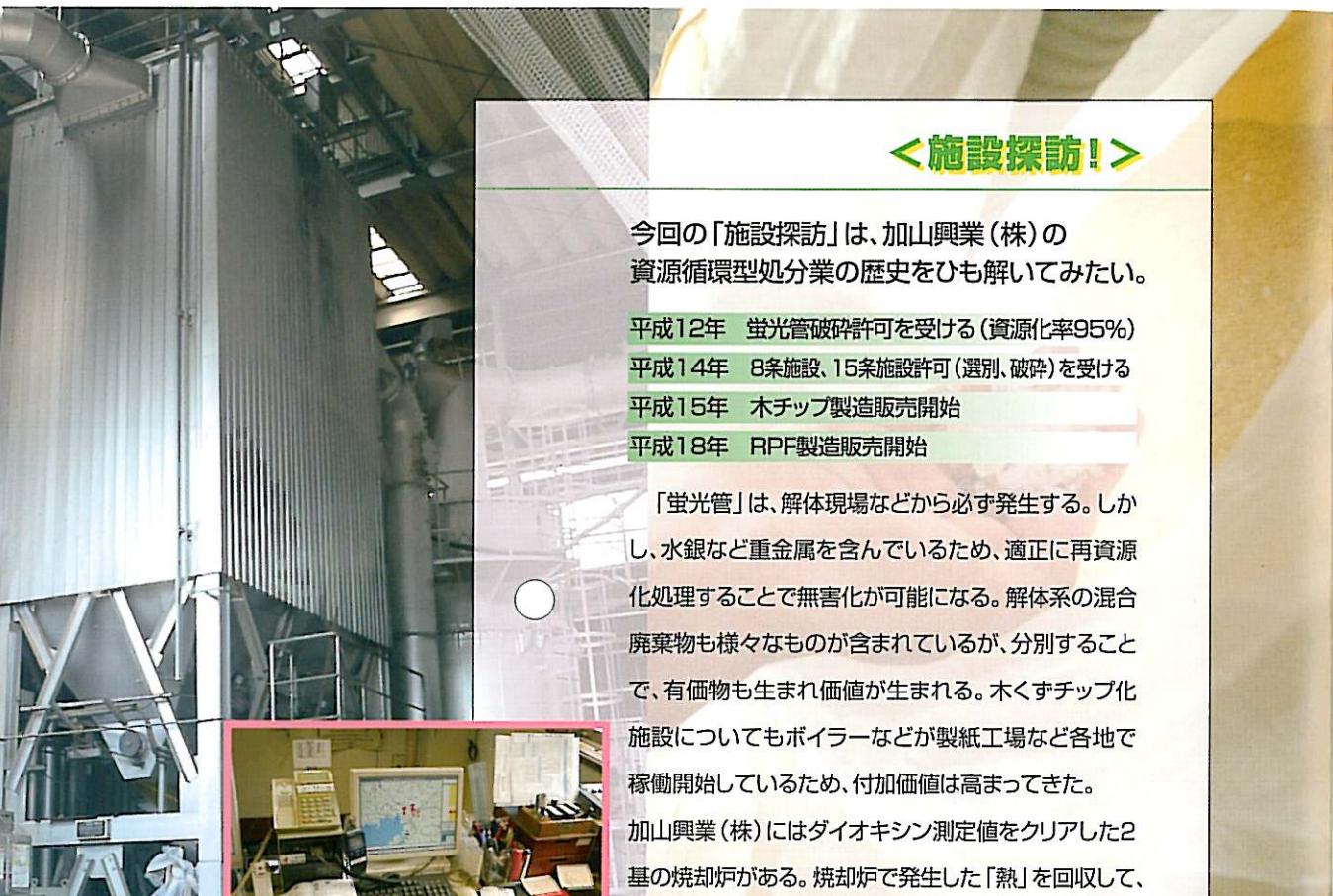
一般的には、廃棄物処理業者が出火すると致命傷になることもある。加山興業(株)が近隣を大切にしていたことをわかつてくれていたようだ。特に、RPF施設は、地球温暖化にも貢献する無害な燃料化プラントだということを分かってもらえていた。

RPFの特徴は、①ハンドリング性が良い。固体で密度が高く、コークス、微粉炭等と同等の利便性をもち、貯蔵特性にも優れている。②品質が安定する。発生履歴が明らかな産廃や選別された一般廃棄物(分別基準適合物)を原料として使用するため。③熱量がコントロール可能。ボイラー等のスペックに応じ、古紙と廃プラスチックの配合比率を変えるだけで熱量変更ができる。④高効率である。プラスチックを使用しているため熱量が高く、石炭やコークス

並みで化石燃料代替として使用可能。⑤ボイラー等燃焼炉における排ガス対策が容易である:品質が安定し、不純物混入が少ないので、塩素ガス発生によるボイラー腐食やダイオキシン発生がほとんどない。硫黄ガスの発生も少なく、排ガス処理が容易。⑥他燃料に比較し経済性に優れる。現状で石炭の3分の1~2分の1という低価格化石燃料や将来負担する可能性のある排出権購入の費用を削減できる。⑦灰化率が石炭に比べ3分の1以下となるため、灰処理費が削減可能——などのメリットがある。

とっても頑固なゴミ屋さん!!

 加山興業株式会社



# Guide

## <施設探訪!>

今回の「施設探訪」は、加山興業(株)の資源循環型処分業の歴史をひも解いてみたい。

平成12年 蛍光管破碎許可を受ける(資源化率95%)  
平成14年 8条施設、15条施設許可(選別、破碎)を受ける  
平成15年 木チップ製造販売開始  
平成18年 RPF製造販売開始

「蛍光管」は、解体現場などから必ず発生する。しかし、水銀など重金属を含んでいるため、適正に再資源化処理することで無害化が可能になる。解体系の混合廃棄物も様々なものが含まれているが、分別することで、有価物も生まれ価値が生まれる。木くずチップ化施設についてもボイラーなどが製紙工場など各地で稼働開始しているため、付加価値は高まってきた。加山興業(株)にはダイオキシン測定値をクリアした2基の焼却炉がある。焼却炉で発生した「熱」を回収して、汚泥の乾燥に利用するサーマルリサイクルを行っている。単純焼却ではないことが重要になっている。

### 豊川リサイクルプラントを建設

平成14年12月、加山興業(株)は「破碎・分別し単品にする」施設として、豊川リサイクルプラントを建設した。最初に、収集された混合廃棄物を選別場にて粗選別する。1次破碎からはじまり風力選別にかかるまで、むだなく分別し有価資源をリサイクルしていく。

破碎・選別された中で、可燃廃棄物は、ダイオキシン測定値をクリアした2基の施設焼却で処理されるが、建築汚泥の処理も乾燥施設で行う等「サーマルリサイクル(熱回収)」を行っている。焼却プラントには、それぞれ「バグフィルター」が付けられており、ダイオキシン類を出さない工夫は、万全だ。

# People

## <MVP:最高の笑顔で働く社員>

### 天高く 障壁跳ね除け リサイクル

ここでは、目覚しい活躍をした従業員や将来有望な社員を顕彰し、紹介するコーナーです。

第2回目は、営業の安井邦洋(やすい・くにひろ)さんを紹介します。

私は、2006年9月に入社しました。

それまでは、鋳物に入る添加剤を販売する仕事をしておりましたが、日本では鋳鉄製品製造現場で「こんな物まで」と思うほど、リサイクルが確立されていることを知って、環境に興味を持ち始めました。様々な事業者から発生する廃棄物を再生利用できることがわかるようになってきて、おもしろさが出てきました。

現在、担当している地域は、愛知県東三河地区をはじめ静岡県の製造業者などに営業を行っております。あるFRP原料供給をしている工場に訪問したときのことでした。「これを何とか適正にリサイクルできないものか」と、担当者から相談を受けたことがきっかけでした。その工場も環境マネジメントシステムを導入しており、訪問先を除くグループ内全工場は既にゼロエミッションを実現しており、担当者はISO推進本部から強いプレッシャーを受けていました。FRP製品の成型加工を行うグループ工場の中で、訪問先は各工場に成型前のFRP生地供給の役割を担っており、産廃の性質が異色だったため、ゼロエミが遅れていました。

発生する産廃は、成型前の生地の段階での廃棄のため、半乾きの状態で、有機溶剤の臭いが強く、持つて行く処分場もありませんでした。何件ものリサイクル工場で断られましたが、顧客と何度も打合せ、廃棄方法に工夫を重ねました。そして、やっと廃棄物発電の施設が「受けてもいい」と言ってくれ、排出先の工場に確認したところ「…やってみようか。」と言っていました。あきらめずに処理先を探し続けたことがよい結果につながりました。

今や、建設や解体の現場でも「再生利用」「リサイクル」に気を付けるようになってきました。大手の建設会社は、不法投棄されることを徹底的になくすために、最終処分場などを指定するケースも生まれてきました。一般的には、リサイクルは重要視されておりますが「どれだけ環境負荷を低減することができるのか」という問題が大事だと考えております。せっかく再生利用できる処理をしても、環境に負担をかける場合には、本末転倒になってしまいます。排出先にも、現在提案した処理方法で、環境負荷を減らすことができたことを明確にして喜んでもらえるように営業をしていきます。

